

第 8 回交通経営マネジメント研究会議事録

- (1) **日時** 2007 年 7 月 26 日 (木曜日) 16:30～18:30
 (2) **場所** 京都大学 吉田キャンパス 法経総合棟 3 階 演習室 3 1 1

(3) **配布資料**

- 8 - 1 : 第 8 回交通経営マネジメント研究会
 8 - 2 : 第 7 回交通経営マネジメント研究会議事録
 8 - 3 : 提供資料 1
 8 - 4 : 提供資料 2
 8 - 5 : 提供資料 3
 8 - 6 : 提供資料交通経営マネジメント研究会名簿一覧

(4) **話題**

「交通ネットワークの信頼性評価とその周辺：交通均衡の確率的アプローチ」

金沢大学 中山 晶一郎氏

(5) **出席者** (順不同, 敬称略)

	名 前	所 属
1	小林潔司	京都大学経営管理大学院 / 京都大学大学院工学研究科
2	上田孝行	東京大学大学院工学系研究科
3	江尻 良	京都大学経営管理大学院 / 東海旅客鉄道株式会社
4	宇野伸宏	京都大学経営管理大学院 / 京都大学大学院工学研究科
5	竹林幹雄	神戸大学工学部
6	松島格也	京都大学大学院工学研究科
7	宗和泰司	関西電力株式会社
8	安野貴人	(株) ニュージェック
9	大西重行	(株) クリアパス
10	満 徳勇	京都大学経営管理大学院
11	野寺寿雄	京都大学経営管理大学院
12	岡田貢一	京都大学経営管理大学院
13	南本哲穂	京都大学経営管理大学院
14	小泉慶倫	京都大学経営管理大学院
15	金 進英	京都大学大学院工学研究科
16	鄭 蝦榮	京都大学大学院工学研究科
17	山崎浩気	京都大学大学院工学研究科
18	森 大祐	京都大学大学院工学研究科
19	菱田憲輔	京都大学大学院工学研究科

(6) 話題提供 : 中山 晶一郎氏 (金沢大学)

「交通ネットワークの信頼性評価とその周辺：交通均衡アプローチ」

主な質疑応答は以下の通り

——— : 今回の基本モデル・応用モデルは従来の確率均衡モデルと何が違うのか？

従来の確定 UE は次のように定式化される。

$$\min_j C_{ij}(x)$$

また、SUE は次のように定式化される。

$$E[\min_j C_{ij}(x)]$$

これら従来のものに対して、今回の基本モデルは次のように

$$\min_j E[C_{ij}(x)]$$

また、今回の応用モデルは次のように

$$E'[\min_j E[C_{ij}(x)]]$$

表現でき、最小化と期待値の取り方に違いがあるという解釈でよいのか？

——— : まさにそのような解釈でいいと思う。基本モデルでは、微分できないという欠点があるので、ロジットモデルを用いて応用モデルを開発した。

——— : 確率論的アプローチにおいて、確率変動がどこから発生しているものなのかを考えないといけない。システム自体が持っている変動なのか？それとも、ユーザーが持っている変動なのか？を特定すべきである。実証的関心から言うと、マクロ的な OD 確率変動とミクロ的な個人の中にある確率変動では、OD 確率変動の影響が大きいのではと思う。

——— : 変動の源がどこにあるのか？が一番重要である。また、経路変動は Time to Time で、また OD は Day to Day でと管理の視点が異なる。

——— : 物流の世界では一般的になっている Day to Day の議論をすべきであるが、未だできていない。

(7)次回研究会

開催日：10 月 3 日(水)午後 4 時半- 法経総合館 2 階 大会議室(予定)

発表者：東京工業大学 藤井 聡 先生

発表内容：モビリティマネジメントの取り組みについて(仮)